



校長室だより

校長室の窓

第 6 号

平成27年11月10日

萩市立福栄中学校

発行：柳林 浩一

生活の中で「残心 (ざんしん)」を意識していますか？

「残心」という言葉を知っていますか。「残身」と表すこともあります。剣道や弓道などの武道の世界でとても大切にされている考え方です。剣道部の人全員知っていると思います。剣道で試合をします。一本打ち込みました。「面！」決まりました。でも大切なことは、その後気を抜くことなくちゃんと構えているかどうかです。「打ってからの心はどうか」「打ってからの気構えはどうか」「打ってからの身構えはどうか」ということを審判はしっかりと見ていて、トータルして「じゃあ一本取りましょう」ということになるのです。



私は、この「残心」には大きく2つの意味があると思っています。

- ① 自分がやったことに責任をもち、決してやりっぱなしにしない。心（注意力・集中力）を途切れさせない。
- ② 使った物（道具）や使った場所（練習場）を心を込めてきれいにする。

「残心」に込められた2つの意味から皆さんの日々の生活を見ていると、気になることがいくつかあります。日頃の自分はどうか、振り返ってみてください。

- 掃除が終わった後、ぞうきんやホウキなどの道具が出しっぱなし
- 使った後のぞうきんを汚れたまま、しわくちゃのままぞうきんかけに置きっぱなし
- カバン等を入れた教室のロッカーや更衣室のロッカーのとびらが開けっ放し
- 中庭の落ち葉が集めたままそのまま置きっぱなし
- 更衣室のドアが開けっ放し
- 特別教室での授業や体育の授業で教室を空ける時、教室の蛍光灯がつけっぱなし
- 特別教室での授業や体育の授業で教室を空ける時、机の中からイスを出しっぱなし
- 自転車置き場の自転車の荷台のヒモが垂れっぱなし

いずれも「残心」とは、ほど遠い状態だと思いませんか。残念なことです。

また、あいさつに関して言えば、「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」のあいさつの後の立ち止まっただけの「会釈」は、まさに「残心」を意識した美しい姿であると思います。だから相手の心にしつかりと伝わるものがあるのです。ぜひ身につけましょう。

全校生徒27名全員が、様々な場面で「残心」を意識して日々生活する福栄中学校でありたいと思います。

